

## 眼科

### ■ スタッフ

科長	近藤 峰生
副科長	生杉 謙吾

医師	常勤	21名
	非常勤	8名
視能訓練士		8名

### ■ 診療科の特色・診療対象疾患

#### 眼科の特徴

三重大学眼科では、現在、あらゆる眼科疾患（眼窩疾患分野を除く）に対して、診断と治療をおこなっています。

初診外来は、月曜日から金曜日の8:30～11:00で、紹介状をお持ちでない初診患者さんの診察も受け付けています。（紹介状をお持ちでない場合、別途「選定療養費」がかかります。）特に、火曜日と水曜日の教授外来には、難治性の網膜疾患の方を中心に全国から患者さんが受診されています。再診は、予約制となっています。

三重大学眼科が得意とする疾患は、網膜硝子体疾患（糖尿病網膜症、網膜剥離、黄斑円孔、黄斑前膜などの診断と手術治療）、加齢黄斑変性（抗血管新生療法、光線力学的療法）、網膜変性疾患（網膜色素変性、黄斑ジストロフィーなどの診断とリハビリテーション）、角膜疾患（角膜炎、角膜炎、角膜ジストロフィー、角膜混濁に対する角膜移植術）、涙道疾患（鼻涙管閉塞に対する内視鏡手術や耳鼻科との合同手術による涙嚢鼻腔吻合術・鼻内法）、緑内障（難治緑内障に対する手術治療）、白内障（小切開超音波白内障手術）、斜視・弱視（屈折矯正と斜視弱視訓練及び手術）、小児眼科（先天白内障、先天緑内障、未熟児網膜症などの小児眼疾患）、ぶどう膜炎（サルコイドーシス、ベーチェット病、原田病など）です。

また、眼科医が24時間365日院内待機をしている県内では数少ない病院の一つで、特に眼外傷の緊急手術など、眼科二次救急を担当しています。

### ■ 診療体制

#### 主な専門外来

三重大学眼科では、特に専門的治療が必要な疾患、治療の困難な疾患、頻度の高い疾患については専門外来を設け、その分野についてのエキスパートが

治療を担当します。

#### 1) 教授外来

近藤教授の外来には、難治性眼疾患の患者さんをはじめ、全国からあらゆる眼科疾患の患者さんが受診されていますが、特に教授の専門分野は、網膜硝子体疾患、網膜の機能評価（臨床視覚電気生理）です。

#### 2) 網膜硝子体外来・糖尿病外来

網膜剥離、黄斑部疾患（黄斑上膜、黄斑円孔、黄斑浮腫、中心性漿液性網脈絡膜症など）、網膜静脈閉塞症、網膜動脈閉塞症、増殖硝子体網膜症、硝子体出血などの診断および治療をおこなっています。特に重症型糖尿病網膜症、日本でも中途失明原因の上位となっている加齢黄斑変性という網膜の中心部に異常を来す疾患の専門治療もおこないます。手術治療が中心となることが多いですが、加齢黄斑変性に対しては、蛍光眼底造影検査などによる正確な診断と硝子体注射と呼ばれる眼内注射治療および光線力学的療法をおこなっています。

#### 3) 緑内障外来

日本でおこなわれた大規模調査によると、40歳以上の日本人では20人に1人の割合で緑内障患者が存在すると言われていています。また日本における失明原因のトップは緑内障です。緑内障外来では、最新の検査機器を使った早期診断から長期的な点眼治療、重症例に対する手術治療まで緑内障のトータルケアをおこないます。

#### 4) 角膜炎外来

角膜炎（細菌、真菌、ウイルスなど）、ドライアイ、円錐角膜、水疱性角膜炎や遺伝性の角膜炎などの診断と治療をおこなっています。特に角膜炎の迅速診断や角膜移植治療を積極的にこなっています。

#### 5) コンタクト外来

円錐角膜や角膜の強い乱視などの眼疾患があり、通常のコンタクトレンズができない方を対象に経験豊富な角膜専門医がコンタクトレンズの処方をおこないます。

#### 6) 涙道外来

成人の鼻涙管閉塞症、乳幼児の先天鼻涙管閉塞症に対し、涙道内視鏡を用いた検査及び治療をおこなっています。また、当院耳鼻咽喉科とも

連携し、流涙症に対し顔に傷が残らない涙嚢鼻腔吻合術鼻内法をおこなっています。

7) 小児眼科外来

視機能発達の重要な時期にある小児が罹患する斜視、弱視、先天白内障、先天緑内障、未熟児網膜症などの疾患の診断、治療をおこないます。また、視能訓練士という国家資格を有する8名の専門スタッフが丁寧に時間をかけて小児の検査・訓練をおこないます。

8) ロービジョン外来

現在の視機能を評価し、読み書きのための道具（ルーペ、拡大読書器、音声パソコンなど）の選定、白杖、日常生活補助具の紹介や身体障害者手帳申請の相談、視覚障害者用社会福祉関係の施設や職能訓練施設の情報提供などをおこなっています。ロービジョン外来は、完全予約制です。

9) 神経眼科外来

視神経炎、虚血性視神経症、遺伝性視神経症、甲状腺眼症、重症筋無力症、眼瞼痙攣、眼窩炎症性疾患等を扱っています。毎月第2木曜日の午前に非常勤講師の前久保医師と当院医師で担当しています。

10) 眼瞼外来

毎週水曜日の午後、主に加齢性眼瞼下垂等、良性疾患の手術治療をおこなっています。

■ 治療実績

1) 外来患者数 (人)

	2022 年度
総外来患者	32,366
総初診患者	1,613
県外からの紹介患者	36
小児(15歳以下)の紹介患者	187

\*特に 2022 年度は眼底三次元画像解析検査 11,186 件、涙管チューブ挿入 101 件などを外来にて施行

2) 入院患者数 (人)

	2022 年度
総入院患者(人)	5,367
平均在院日数(日)	3.7

3) 外来及び入院での手術及び眼注射件数 (件)

	2022 年度
総手術件数	2,203
硝子体注射	2,651
テノン嚢注射	69

\*総手術件数には硝子体注射及びテノン嚢注射を含まず。

4) 主な施行手術と件数 (件)

手術名	2022 年度
硝子体手術	351
網膜復位術	29
白内障手術	921
角膜手術	76
緑内障手術	178
斜視手術	76

■ 臨床研究等の実績

当科からの論文発表や学会発表実績は以下の通りです。(2022 年度の代表的なもののみ掲載)

<英語論文>

- Sugimoto M, Handa C, Hirano K, Sunaya T, Kondo M: Intravitreal aflibercept for diabetic macular edema in real-world clinical practice in Japan: 24-month outcomes. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 260(11):3489-3498. 2022
- Matsubara H, Matsui Y, Miyata R, Ichio A, Chujo S, Enomoto H, Sugimoto M, Kondo M: Effects of suspension of anti-vascular endothelial growth factor treatment for neovascular age-related macular degeneration in clinical setting. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 260(6):1867-1876. 2022
- Kato K, Nagashima R, Matsubara H, Ikesugi K, Tsukitome H, Matsui Y, Nunome T, Sugimoto M, McCulloch DL, Kondo M: Transient Increase of Flicker

Electroretinography Amplitudes after Cataract Surgery: Association with Postoperative Inflammation. *Ophthalmol Sci* 3(1):100243. 2022

●Matsui Y, Imamura K, Ooka M, Chujo S, Mase Y, Matsubara H, Kawanaka H, Kondo M: Classification of good visual acuity over time in patients with branch retinal vein occlusion with macular edema using support vector machine. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 260(5):1501-1508. 2022

●Matsui Y, Imamura K, Chujo S, Mase Y, Matsubara H, Sugimoto M, Kawanaka H, Kondo M: Which Explanatory Variables Contribute to the Classification of Good Visual Acuity over Time in Patients with Branch Retinal Vein Occlusion with Macular Edema Using Machine Learning? *J Clin Med* 11(13): 3903. 2022

●Chujo S, Matsubara H, Ichio A, Matsui Y, Sugimoto M, Kondo M: Three cases of acute retinal necrosis with atypical fundus findings. *Retin Cases Brief Rep*. [Online ahead of print]

●Enomoto H, Sugimoto M, Asami S, Kondo M: Progress of Diabetic Macular Edema after Loading Injection of Anti-Vascular Endothelial Growth Factor Agents in Real-World Cases. *Medicina (Kaunas)* 58(10):1318. 2022

●Mase Y, Kubo A, Matsumoto A, Masuda K, Kadoya M, Koizumi K, Sotozono C, Kondo M: Posterior scleritis with choroidal detachments and periaortitis associated with IgG4-related disease: A case report. *Medicine (Baltimore)* 101(29):e29611. 2022

●Maeda S, Sugimoto M, Tenma Y, Tsukitome H, Kato K, Chujo S, Matsui Y, Matsubara H, Kondo M: Response to Initial Anti-Vascular Endothelial Growth Factor for Diabetic Macular Edema Is Significantly Correlated with Response to Third Consecutive Monthly Injection. *J Clin Med* 11:6416. 2022

●Furukawa R, Matsubara H, Uchiyama E, Sugimoto M, Kondo M: Case of Repeated Full-Thickness Macular Hole Formations and Spontaneous Closure following Intravitreal Bevacizumab Treatment for Central Retinal Vein Occlusion. *Case Rep Ophthalmol* 13:981-987. 2022

●Mizohata H, Ikesugi K, Kondo M: Frequent self-monitoring of intraocular pressure can determine effectiveness of medications in eyes with normal tension glaucoma: A case report. *Medicine (Baltimore)* 101(52):e32478. 2022

●Mizumoto K, Kato K, Fujinami K, Sugita T, Sugita I, Hattori A, Saitoh S, Ueno S, Tsunoda K, Iwata T, Kondo M: A Japanese boy with Bardet-Biedl syndrome caused

by a novel homozygous variant in the ARL6 gene who was initially diagnosed with retinitis punctata albescens: A case report. *Medicine (Baltimore)* 101(50):e32161. 2022

●Ota A, Ota I, Kachi S, Miyake G, Miyake K, Kondo M: Findings in pseudophakic eye that developed liquefied aftercataract-like substance one day after vitrectomy. *Am J Ophthalmol Case Rep* 27:101615. 2022

●Kondo M, Fujinami K, Horiguchi M: Local Organizers of ISCEV in Kyoto 2023: 60th annual symposium of the international society for clinical electrophysiology of vision (ISCEV 2023 Kyoto). *Doc Ophthalmol* 146(Suppl 1):1-2. 2023

●Harada S, Kato K, Matsui Y, Sugimoto M, Matsubara H, Kondo M: Multiple evanescent white dot syndrome in highly myopic eye in which fundus autofluorescence was diagnostically useful: A case report. *Medicine* 102(5): e32713. 2023

#### <邦文論文>

●近藤峰生、小椋祐一郎、高橋寛二、飯田知弘、石橋達朗、坂本泰二、辻川明孝、五味文、長谷川久美子、山本明史、徳重秀樹：滲出型加齢黄斑変性を対象としたラニビズマブ（遺伝子組換え）バイオ後続品 SJP-0133 の第Ⅲ相臨床試験－先行バイオ医薬品との比較ならびに継続長期投与時の有効性および安全性評価。 *あたらしい眼科* 39 (10) : 1421-1434. 2022

●村元佑己子、加藤久美子、竹内真希、加島悠然、近藤峰生：篩骨洞腫瘍に対する陽子線治療後に発症した放射線網膜症・放射線市神経症の 1 例。 *臨床眼科* 76 (4) : 443-448. 2022

●田中康平、生杉謙吾、一尾多佳子、竹内真希、近藤峰生：2018 年に施行された基準変更に伴う視覚障害認定者数の推移。 *あたらしい眼科* 39 (8) : 1148-1152. 2022

●大久保沙彩、生杉謙吾、一尾多佳子、竹内真希、近藤峰生：2018 年に行われた視覚障害認定基準改正後の視野障害認定状況－三重県における調査報告－。 *日眼雑誌* 126 (8) : 703-709. 2022

●三羽晃平、乙田泰志、水門瞳、松原央、加藤久美子、松井良論、中条慎一郎、蜂矢健介、宮崎香奈、俵功、名藤佑真、宮下博之、近藤峰生、杉本昌彦：眼内悪性リンパ腫診断における MYD88 L265P 遺伝子変異検出の有用性。 *臨眼* 77 (1) : 125-132. 2023

●溝畑英樹、生杉謙吾、近藤峰生：アイケア HOME 手持眼圧計 TA022 を用いた自己測定および他者測定による眼圧値の比較。 *眼科* 65 (3) : 283-288. 2023

（その他の業績等は、下記の三重大眼科公式ホームページをご覧ください。）

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/ophthalmology>